

第 221 回 川崎市中原区の富澤冠受像と市川郁像

筆者：林 久治（記載：2023 年 2 月 15 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張っている人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」という意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要不可欠である。今年の 7 月は、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索をしばらく自粛していた。しかし、大阪在住の 3 人の孫達は夏休み前に感染したが軽症であった。そこで、私は 9 月初旬に大阪に行き、近畿の銅像を探索した。東京に帰ってから、運動を兼ねて銅像探索を続けている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

2 月 4 日には、私は東京駅前にある「丸の内 JP タワー」内の博物館「インターメディアテク」(IMT) の銅像と、御茶ノ水駅近くにある東京デザイナー学院の安達建之助像を探索して、その探索記を [前回の記事/f](#) に記載した。神社の HP を見ていると、川崎中原区の京濱稻荷神社に富澤冠受宮司の銅像があることを見つけた ([3\) のサイト/1](#))。本像は [1\) のサイト/](#) に収録されていないので、探索することとした。その他に、中原区に未収録な銅像を探すと、[4\) のサイト/0](#) にある市川郁像が見つかった。そこで、2 月 12 日に両像を探索した次第である。本稿はこれらの探索記である。なお、私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

（2）京濱稻荷神社の富澤冠受像

次ページの図 1 上左に、京濱稻荷神社の周辺地図を示す。本図より、本社は東急東横線の「新丸子駅」か「武蔵小杉駅」から歩いて行けることが分かる。私は、2 月 12 日の午前、新丸子駅から本社に行った。徒歩で数分であった。本社の鳥居を入ると、「**日本最大**」と「**当神社の由来**」の掲示板があった。それらの写真を、それぞれ図 1 上右と図 1 下に示す。図 1 上右によれば、本社にある日本最大の物は次の通りである。**①神鏡、②本殿建築、③御神使の石像。**

（本文は、3 ページに続く。）



図1.

上左：京濱稲荷神社の周辺地図、本図は、[5\)のサイト](#)より借用。

上右：日本最大の表示、
下：当神社の由来。

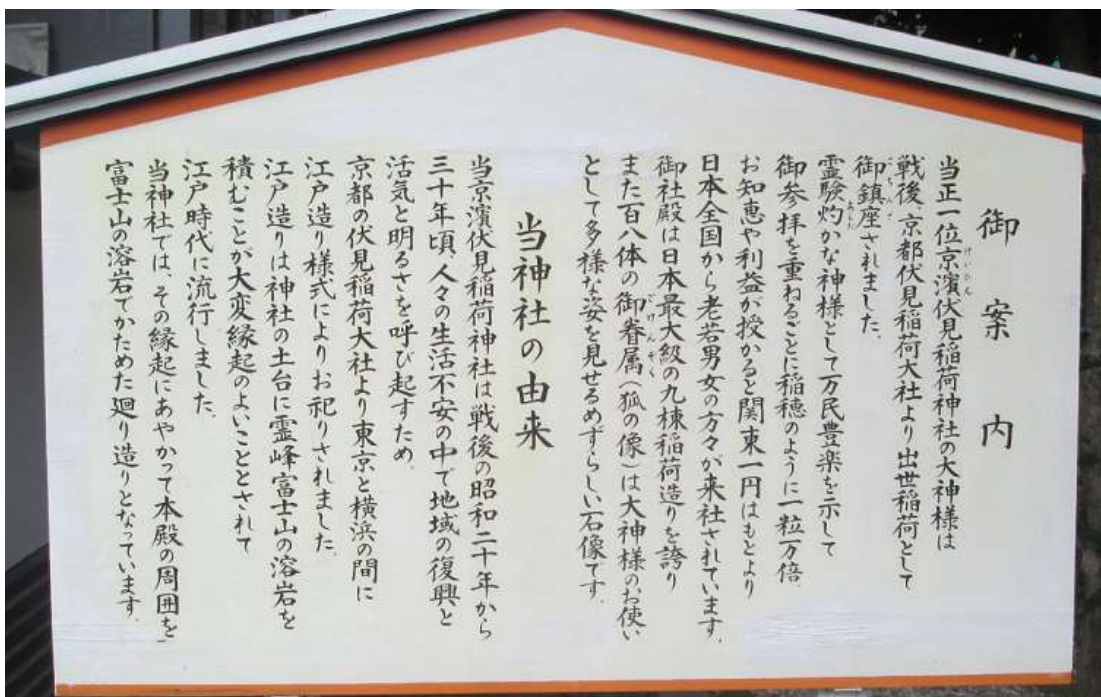




図2.
上：京濱稲荷神社の本殿と
その前に設置された立像、
下：立像の案内板。

図2上に、本社の本殿を示す。看板通りの、大きくて立派な建物である。[3\) のサイト/1](#)によれば「**本社の創建は1951年**」であるが、日本の敗戦から僅か6年後に、かくも壮大な神社を建設したことは驚異的である。図2上には、本殿の前に1基の立像が写っている。その横に、案内板があった。その写真を図2下に示す。

次ページの図3上に、立像の近接写真を示す。図3下左には、台座正面の題字を示す。それには、「**富澤冠受大人之像**」とあった。図3下右には、台座背面の碑文を示す。それによると、「**本像の建設は昭和56年4月であった**」ことが分かる。

(本文は、5ページに続く。)



図3.

上：富澤冠受大人之像

下右：本像台座正面の題字、

下左：本像台座背面の碑文。



富澤像の説明は、本像の周辺には上記以外の資料はなかった。従って、本像の制作者は不明である。また、富澤氏の経歴に関するネット記事は見当たらなかった。謎の人物である。以上の資料などにより、富澤像の概要は次の通りです。

富澤冠受大人立像

設置場所：神奈川県川崎市中原区新丸子東 2-980 京濱伏見稲荷神社境内

制作者：不明、

設置時期：1981 年 4 月

設置経緯：京濱伏見稲荷神社は 1951 年の創建。本寺院の由来書には以下の記載がある。

当神社の由来

当京濱伏見稲荷神社は戦後の昭和二十年から三十年頃、生活不安の中で地域の復興と活気と明るさと呼び起こすため、京都の伏見稲荷大社より東京と横浜の間に、江戸造り様式によりお祀りされました。江戸造りは神社の土台に霊峰富士山の溶岩を積むことが大変縁起のよいこととされて、江戸時代に流行しました。当神社では、その縁起にあやかって本殿の周囲を富士山の溶岩でかため廻り造りとなっています。

本像の案内板には以下の記載がある。

霊神富澤冠受大人之命

この方は当神社の初代宮司で創設者（1905-1978 年）です。京都、伏見稲荷大神様をはじめ上野、不忍池弁天様の御加護を受け神示のもと当社殿昭和の大建築を完成され万民豊楽を御祈願されています。

（3）武蔵中原駅前の市川郁像

私は富澤像の探索後、JR 武蔵小杉駅から南武線に乗って、隣の武蔵中原駅に行った。同駅の周辺地図を図 4 に示す。



図 4. 武蔵中原駅の周辺地図、本図は、[1\)](#) のサイト/より借用。



図5.

上：JA セレサ川崎中原支店、
下左：市川郁像、
下右：本像の題字。



目指す JA セレサ川崎は、武蔵中原駅南口から歩いて2分くらいの近距離にあった。図5上に JA セレサ川崎中原支店を、図5下左に支店前に設置されていた胸像を、図5下右には本像台座正面の題字を示す。題字には「市川郁先生」とあった。本像は支店前にあったので、写真撮影は自由に出来た。（本文は8ページに続く）

發起人代表

國 務 大 臣 河 野 一 郎

神 奈 川 県 知 事 内 山 岩 太 郎

川 崎 市 長 金 判 不 二 太 郎

川 崎 市 信 員 全 庫 澤 重 實 二 藤 準 三 郎

川 崎 市 農 業 協 会 長 倉 島 實 三 郎 鈴 木 新 之 助

川 崎 市 農 業 協 会 副 会 長 中 野 幸 之 助

川 崎 市 農 業 協 会 会 員 長 福 岡 和 夫

川 崎 市 農 業 協 会 会 員 小 峯 利 一

図6.
上：本像台座側面の名簿、
下：本像台座側面の碑文。

六川郡先生は明治廿二年一月川崎市新法書
 一氏長男として出生 東京赤十字看護学校
 卒業後農業に従事昭和四年八月中原町全
 業員に当選同八年十一月川崎市会議員に当
 選亦赤十字議員十二年四月神奈川県会議員に
 当選尔来三選同廿二年四月中原消防組頭に
 命ずの後改組により中原消防司長として今
 日に至る 同廿年三月消防組の整備拡充
 に寄与し更に同廿九年十一月地方自治の発
 展に貢献した功績により再度藍綬褒章を賜
 わる 同廿三年七月川崎農協設立に於けるや
 組合長に就任尔来今日まで益々年若組合の
 進展に尽力する等の偉業を忍び徳を慕ふ
 こにこの尊像を建てたる

昭和四十年九月

有志一同

図6上に本像台座側面の発起人代表名簿を、図6下に本像台座側面の碑文を示す。名簿には、神奈川県と川崎市の名士の名前が連ねられていた。ウィキペディアを参考にして、主な人物の略歴を以下に記載する。

河野 一郎（このの いちろう、1898年6月2日 - 1965年7月8日）は、神奈川県出身。副総理、農林大臣、日本自由党幹事長、自由民主党総務会長などを歴任。昭和中期の政界実力者の一人。また、地元神奈川県県政にも強い影響力を持ち、県は「河野王国」とも呼ばれた。

内山 岩太郎（うちやま いわたろう、1890年2月28日 - 1971年11月19日）は、日本の外交官・政治家・実業家。神奈川県知事（公選第1・2・3・4・5代）、テレビ神奈川初代社長。日本の国際連合加盟に貢献をした人物として知られる。群馬県前橋市出身。

金刺 不二太郎（かなさし ふじたろう、1895年5月18日[1] - 1980年1月4日）は、静岡県賀茂郡出身。東京工科大学卒。川崎市議、同議長、神奈川県議を経て、1946年の第22回衆議院議員総選挙に立候補するが落選。同年8月川崎市長に就任した。以来7期務める。

碑文には、市川氏の経歴が比較的詳しく紹介されていた。彼のネット記事は少ないので、本文は貴重な資料である。その全文を、「[本像の概要欄](#)」に記載する。要するに、市川氏は中原町議会、川崎市議会、および神奈川県議会の議員を歴任し、地元の消防団と農協の初代団長に選ばれている。

[6\) のサイト/f](#)と[7\) のサイト/1](#)を参考にして、中原消防団の沿革を以下に簡潔に紹介する。

1939年4月：川崎第五警防団発足（消防組と防護団を一元化）、初代団長は市川郁。

1947年10月：中原消防団発足、初代団長は市川郁。

1969年9月：市川団長死亡（70才）。

1969年11月：2代団長に田辺亘が任命される。

[8\) のサイト/1](#)によれば、JA セレサ川崎の発足は次の通りである。

1997年10月1日に市内4JA（川崎信用農協・川崎農協・川崎中央農協・川崎市多摩農協）が合併し、JA セレサ川崎発足。

従って、JA セレサ川崎の発足時には、市川氏は既に故人となられている。彼は、合併前の市内4JAのいずれかの発足時にその初代組合長に就任されたのであろう。図6下の碑文では、農協に関する記載は以下の通りである。

同廿三年（1948年）七月川崎農協設立されるや組合長に就任以来今日まで（1965年9月）粒粒辛苦組合の進展に尽力する。（括弧内は、林の加筆）

本像背面には制作者のサインがあった。背面空間は大変狭かったので、写真撮影に苦労した。何とか撮影したサインを次ページの図7に示す。背面の彫文は次のように読めた。

昭和四十年初秋 圓鏢勝三作

ウィキペディアによれば、圓鏢先生の略歴は次の通りである。

圓鏢勝三（えんつば かつぞう、1905年11月30日 - 2003年10月31日）は、広島県出身の彫刻家。本名は勝二。1921年河内尋常高等小学校高等科を卒業し、彫刻家を志して京都へ赴き、石割秀光の内弟子となって木彫を学ぶ。1926年、京都市立商工専修学校彫刻科・デッサン科に入学。1928年に上京し、日本美術学校彫刻科へ入学。1947年、多摩美術学校（現多摩美術大学）助教授となる。1950年、多摩美術短期大学教授に就任。1953年、多摩

美術大学教授となる。文化功労者、文化勲章受章、広島県名誉県民、尾道市名誉市民。1991年、川崎市名誉市民。（圓鏝先生は川崎市に長らく住んでおられたようだ。）



図7.
本像背面に彫られた制作者のサイン

以上の資料などにより、市川像の概要は次の通りである。

市川郁先生像

設置場所：神奈川県川崎市中原区上小田中 5-1-1 JA セレサ中原支店

制作者：圓鏝 勝三（文化勲章受章、1905-2003）

設置時期：1965年9月

設置経緯：市川郁氏（1899-?）は川崎市生まれ。本像建設の発起人代表として、国務大臣河野一郎、神奈川県知事内山岩太郎、川崎市長金刺不二太郎などの名前が記載されている。

本像台座側面の碑文には以下の記載がある。

市川郁先生は明治卅二年一月川崎市新城喜一氏長男として出生 東京都立園芸高等学校卒業後農業に従事昭和四年八月中原町会議員に当選同八年十一月川崎市議会議員に当選以来三選同廿二年四月神奈川県会議員に当選以来五選 同十年四月中原消防組頭拝命その後改組により中原消防団長として今日に至る 同卅年三月消防施設の整備拡充に寄与し更に同卅九年十一月地方自治の発展に貢献した功績により再度藍綬褒章を賜る 同廿三年七月川崎農協設立されるや組合長に就任以来今日まで粒粒辛苦組合の進展に尽力する等の偉業を忍び徳を慕いここにこの尊像を建てる

昭和四十年九月 有志一同

参考資料

1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>

- 2) のサイト : <http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト : <https://jinjamemo.com/archives/keihinfushimiinarijinja.html>
- 4) のサイト : <https://machique.st/spots/66230>
- 5) のサイト : <https://www.mapion.co.jp/phonebook/M06005/14133/L0700483/>
- 6) のサイト :
<https://www.city.kawasaki.jp/840/cmsfiles/contents/0000119/119284/90nenshi-2.pdf>
- 7) のサイト : <https://www.city.kawasaki.jp/840/page/0000119163.html>
- 8) のサイト : <https://www.jaceresa.or.jp/about/organization.html>